

1. 香川県における水道の広域化の意義と効果について

第1回審議会資料より

◆ 水道を取り巻く課題

- 人口減少等に伴う料金収入の減少
- 施設の老朽化による更新需要の増大
- 南海トラフ地震などの大規模災害や渇水への備え
- 職員の大量退職等に伴う次世代への技術継承の困難化
- 香川用水の取水制限の頻発化及び自己水源の水質悪化



◆ 広域化の目的

将来にわたる安全・安心な水の安定的供給

◆ 見込まれる効果

- ◎スケールメリットを生かした経費削減や業務効率化
- ◎人員の適正配置と機動性の高い柔軟な組織体制の構築
- ◎計画的な施設整備や官民連携による技術の継承
- ◎水源の一元管理による円滑な水融通

→広域化により運営基盤の強化や住民サービスの向上を図る



H30.4.1
全国初
「県内一水道」
の実現

※17団体
(直島町を除く8市8町と県)の水道事業を統合



1. 香川県における水道の広域化の意義と効果について

○広域化による効果

◎スケールメリットを生かした経費削減や業務効率化

事業開始時には財務システム、設計積算・工事検査業務や水質検査計画を統一、令和2年度には水道料金システムの稼働、検針・調定・収納の取扱いを統一し、経費削減や業務の効率化を図っている

◎人員の適正配置と機動性の高い柔軟な組織体制の構築

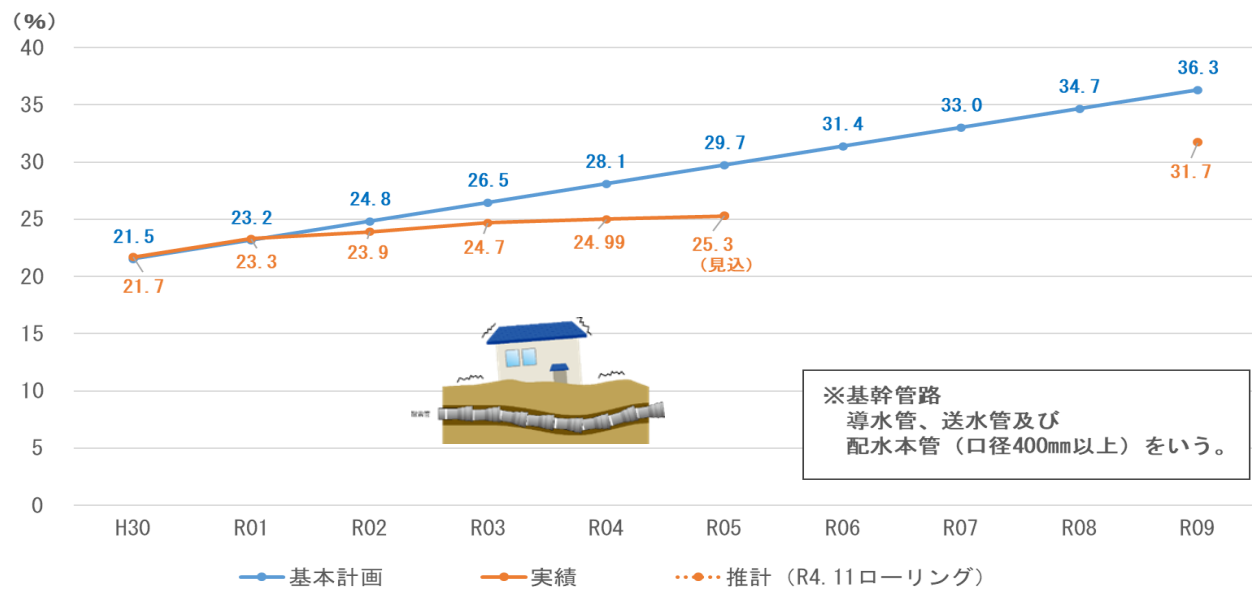
事業開始から2年間は、企業団全体の管理・統括を行う「本部」と、16市町に「事務所」を設置していたが、令和2年度から「事務所」を5つのブロック統括センターに統合。市町の区域を越えて事業を集約することで、広域的な基盤強化や事務事業の効率化を行い、適正な組織体制の構築を図っている

1. 香川県における水道の広域化の意義と効果について

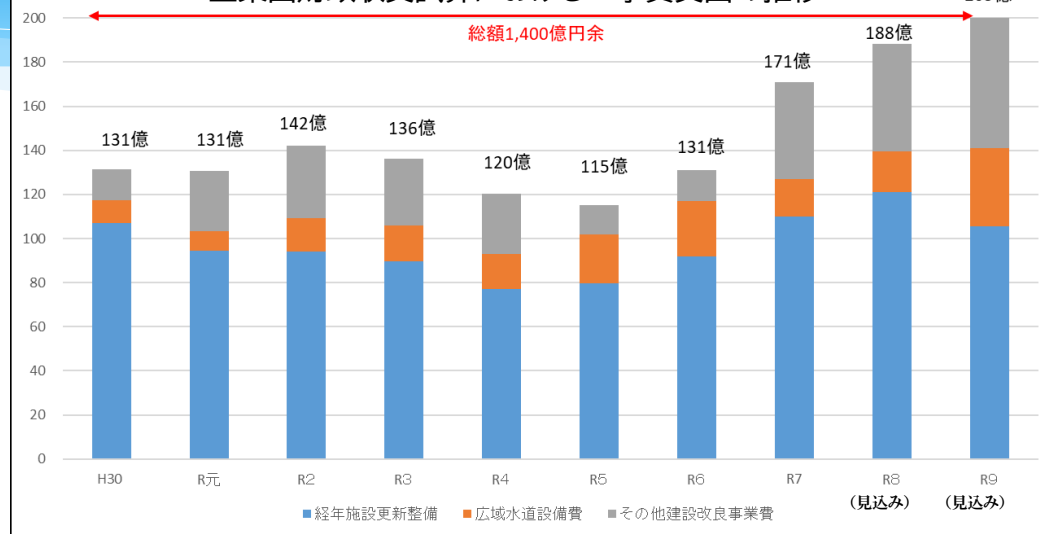
◎ 計画的な施設整備や官民連携による技術の継承

災害に強く、持続可能な水道システムの構築に向け、水道インフラの老朽化・地震対策に必要な予算を確保するとともに、水道管路等の耐震化を加速しています。

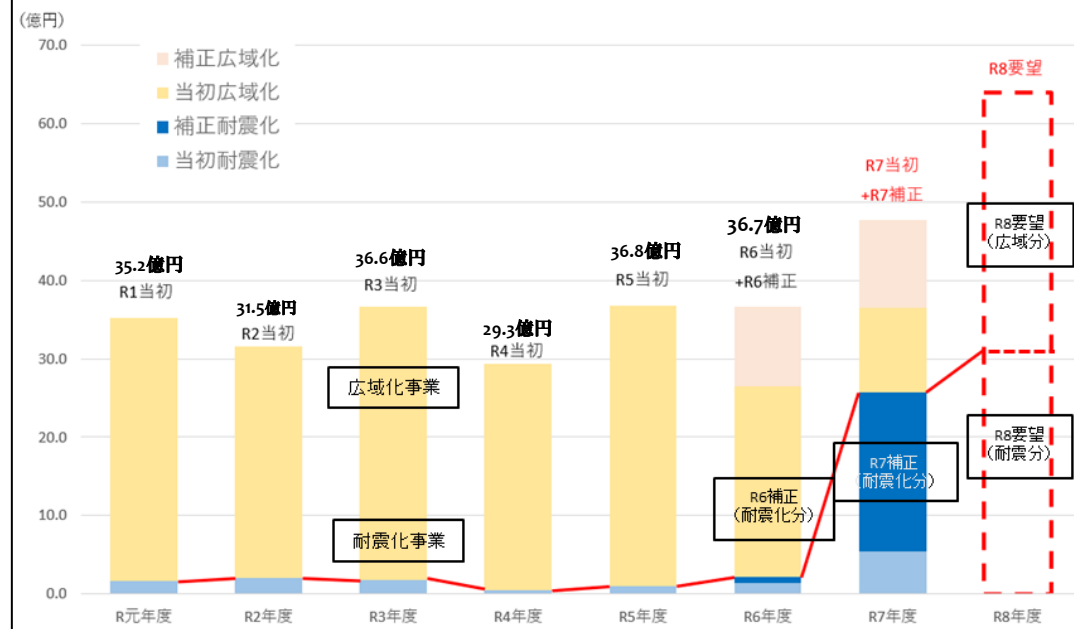
基幹管路耐震化率の推移



企業団財政収支試算における工事費支出の推移



水道施設整備に係る交付金事業費の推移



1. 香川県における水道の広域化の意義と効果について

●官民連携の推進

(浄水場等運転管理業務)

各ブロック管轄エリア

高松ブロック

東部浄水場
高松市、三木町、綾川町

中讃ブロック

中部浄水場
丸亀市、坂出市、善通寺市、宇多津町
琴平町、多度津町、まんのう町

西讃ブロック

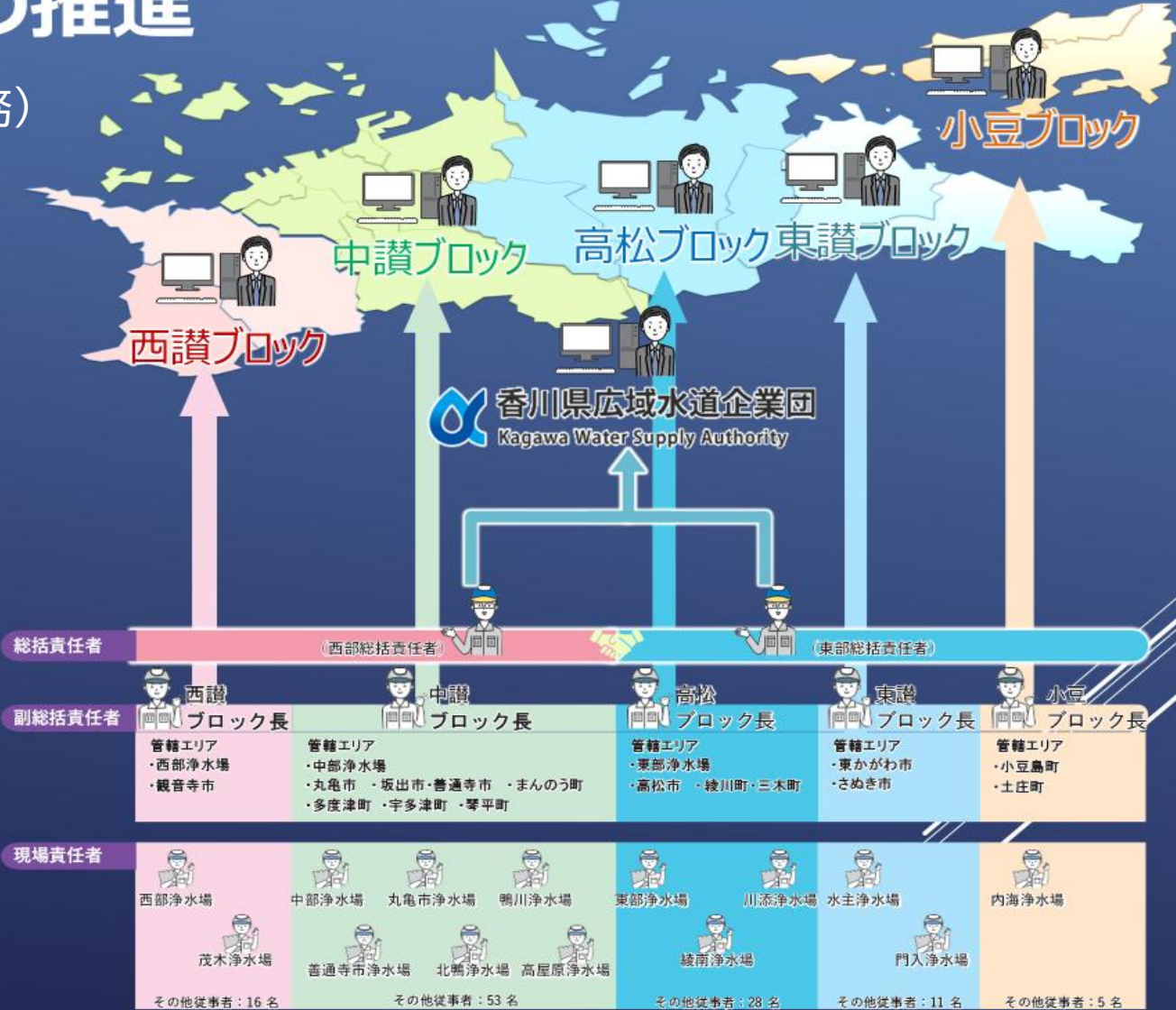
西部浄水場
観音寺市

東讃ブロック

東かがわ市、さぬき市

小豆ブロック

小豆島町、土庄町



1. 香川県における水道の広域化の意義と効果について

【漏水事故等への対応】

応援体制の迅速化

- 広域連携による人員派遣・資機材の相互融通

◎事例1：漏水修繕材料の相互融通
高松BC→広域送水

撮影場所：三豊市三野町
撮影日：令和4年8月25日



◎事例2：給水車の相互融通
中讃BC→東讃BC

撮影場所：さぬき市立さぬき北小学校
撮影日：令和2年11月25日



【危機対策訓練（震災対策）】

◎広域送水管理センターを含めた全ブロック統括センターと本部において、毎年震災対策訓練を実施

今年度は、西讃ブロック管内で甚大な被害が発生したと想定し、観音寺市と共同で応急給水訓練を実施

◎訓練内容

各ブロック統括センターから給水車で応援給水をおこなう

地震が発生！その時あなたは？

みんなで学ぼう **合同防災訓練**

令和7年12月21日(日)
8:30~12:00

場所：観音寺小学校運動場・体育館等

訓練内容

- 地震揺れ体験訓練
 - 給水訓練
 - 消火訓練
 - 避難訓練
 - 救護訓練
 - 非常階段からの避難
 - 防災グッズ等の紹介
- 詳しい内容は、後日連絡します。訓練に参加して経験を重ねていきましょう。

主催：観音寺西公民館区自治会連絡協議会
共催：第2階協議体につこり西クラブ
共催：香川県広域水道企業団
後援：観音寺南公民館区自治会連絡協議会
後援：第2階協議体スマイル観南



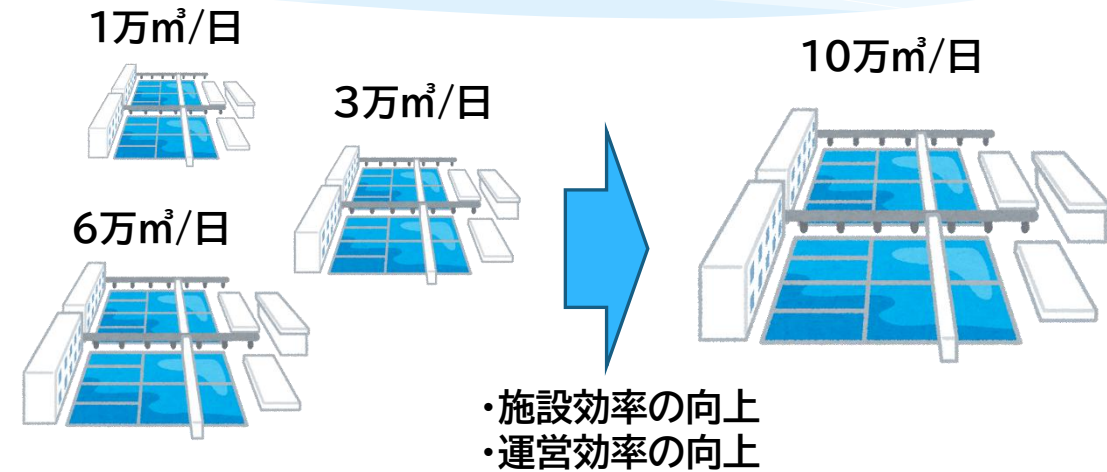
◎訓練実績 R5:高松BC、R6:中讃BC、R7:西讃BC

2. 広域的・一体的な水運用の拡大へ

一市町別の視点から、施設・料金ともに全県的な（県内一水道の）視点へ

【浄水場の統廃合による効率化】

- 水道事業の運営基盤を強化するために、浄水場の統廃合などを実施、水道施設等の維持・管理、運営等の効率化
- 行政区域を越えた施設整備による円滑な水運用

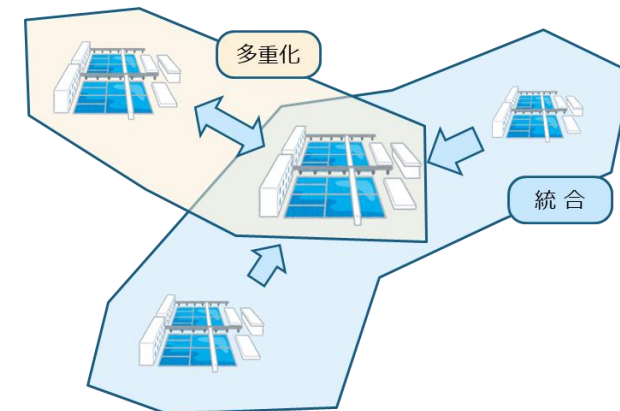


【事業効率性【浄水場(所)数、更新事業費】の向上】

整備効果項目		整備前（R8）	整備後（R25）	整備効果
浄水場(所)数		84箇所	54箇所	△30箇所
更新事業費（主要な浄水場）		約649億円	約280億円	△369億円
内訳	西讃浄水場整備関連	約79億円	約69億円	△10億円
	中讃浄水場整備関連	約486億円	約135億円	△351億円
	東部浄水場拡張関連	約84億円	約76億円	△8億円

- 令和8年度から令和25年度まで
⇒浄水場（所）数を30箇所削減
⇒更新事業費を約369億円削減

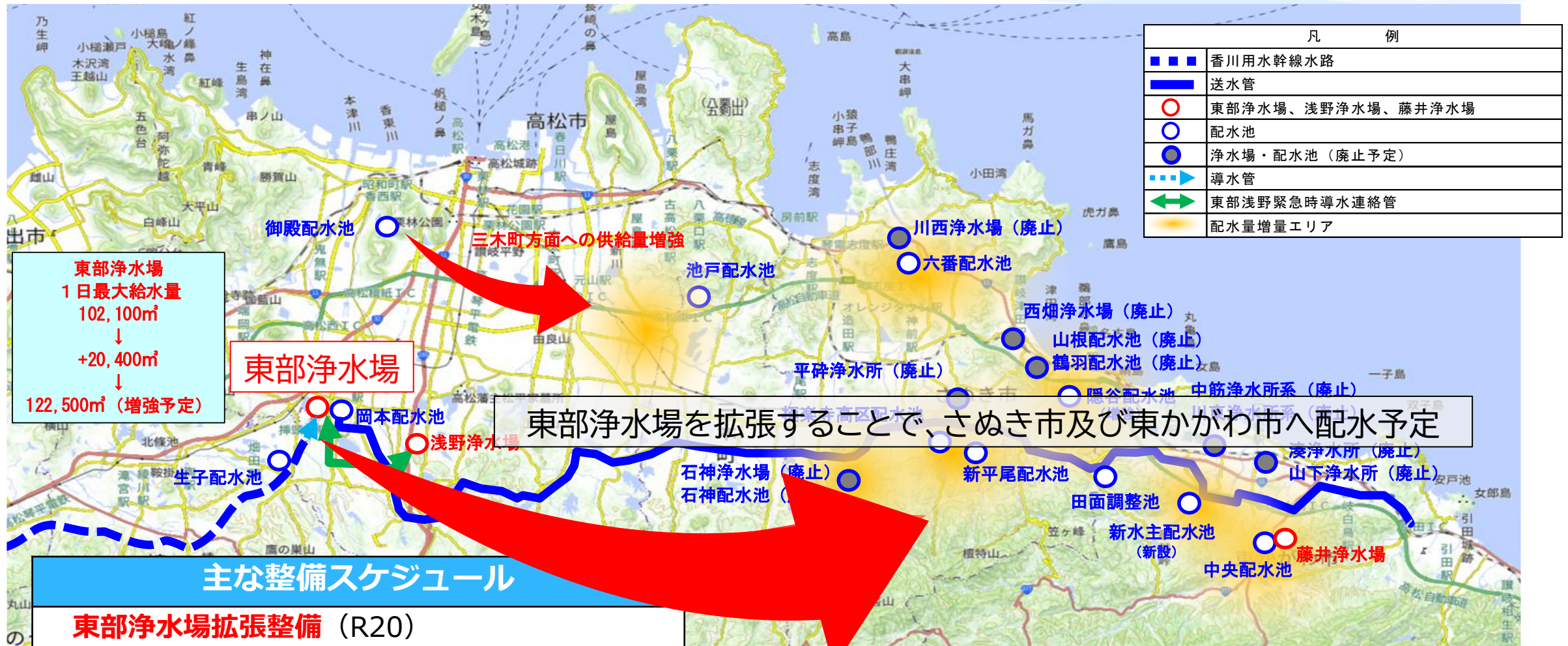
- 隣接する浄水場の統廃合による効率化
- ポンプ場、配水池等の施設配置の見直しによる更新需要の削減
- 浄水場をまたぐ連絡管整備による多重性の確保



2. 広域的・一体的な水運用の拡大へ

一市町別の視点から、施設・料金ともに全県的な（県内一水道の）視点へ

◎水源の一元管理による円滑な水融通



※この地図は、国土地理院の地理院地図を使用して作成した地図を、一部加工したものである。